

# 太虚の齡

(明治四十一年寮歌)

田中義麿君 作歌

早川直瀬君・前川徳次郎君 作曲

一

太虚の齡は知らねども  
興廃うつる人の世の  
文化の跡は四千年  
ありし往昔を温ね来て  
吾が世の狀態を眺むれば  
希望ある前途かな

二

嘗てナイルの河水に  
偉影涵せし金字塔  
アテネの春も夢なれや  
ローマの紅紫また散りて  
欧米の空今正に  
文化の花ぞ盛なる

三

偉大ならずや雪潔き  
ヒマラヤ山下風薫り  
四百余州に吹き入れば  
聖賢雲と叢起して  
深き思想は東洋の  
青史不朽の誇あり

四

今東海の一孤島  
文化の潮寄せ来り  
東西の岸を洗ひつつ  
高き響を伝ふなり  
孤島にこもる国民の  
使命などかは輕からん

五

既に天地の利は獲たり  
人和豈それなからんや  
満韓の原遺利多く  
アルゼンタイン野は広し  
故人の教訓聴かざるや  
「ビーアンビシアスボーイズ」と

六

猛き心の往くところ  
虎狼鯨鰐ものならず  
テキサス劔を入るる可く  
シペリヤ斧を振ふ可し  
故人の教訓膺にせよ  
「ビーアンビシアスボーイズ」と